

＜今回＞384回目 2026年1月12日(月)15時10分～18時 603会議室

読書は3冊目「盗まれた神話」ミネルヴァ版 p116 モタラスの論理性

＜前回＞第383回目(25-12-22)出席者10名

資料1)第382回(25-12-24)のまとめ(清水)

報告 金曜 web は「東日流外三郡誌の逆襲」を読んでと題して、鈴木浩氏の持論の展開であった。氏は倭の5王に「倭王旨」を付け加えて、時代の設定をさらに古くして、東日流6郡誌に拡大して自由自在に古代を解いた。資料は31pにわたり、ほとんど九州の資料であった。玉川宏氏の「語部録」は開化天皇、孝元天皇2代で絶えたという。三輪山に祭りし荒覇吐神を廃して、出雲、南海、筑紫の神を鎮めたが奥州の5王等怒りて倭軍と争った。開化天皇は渡海してきた強敵に国を奪われて脆くも滅んだという。球磨川に河童が数千人上陸した碑があるそう。風聞として5千人の朝鮮の人が上陸してきたという風聞もあるという。

読書 ミネルヴァ版 P110「帝王本紀」の存在。 から

①宙に浮いた史書 天武10年3月 帝紀及び上古の諸事を定めよ、とある。帝王本紀＝帝紀と見なして日本書紀以前にあった文(歴史書)と見なすことは出来ないか。古事記にはこれを書く経緯が書かれている(前文、全文漢文)。古事記は稗田阿礼に誦習させた。それを太安麻呂が記録した。素人の目には疑いのない理解だと古田はいう。

②研究者の理解は逆である。古事記序文の一節をとり、日本書紀に2回出てくる帝紀を同じ意味と理解して、単なる天皇系図と見なした。

③そのため日本書紀の欽明紀の2年の注記で帝王本紀が既に存在して、それを基にして日本書紀が書かれているので帝王本紀が宙に浮いて実体不明の辞(ことば)になってしまったという。

④天皇紀・国記の運命 日本書紀の推古28年皇太子(聖徳太子)・嶋大臣(蘇我馬子)共に謀りて、天皇紀・国記、臣連伴造国造百80部併せて公民等の本記を録す。皇極4年6月蘇我臣蝦夷等の紂に臨み悉く天皇紀及び国記・珍宝を焼く。船史恵尺焼かるる国記を取りて中大兄に奉献す。日本書紀が天皇紀曰く、国記曰くと言う引用をしていない。すなわち天皇紀・国記は失われたままである。

⑤日本書紀は天皇家史書と天皇家外の史書から成り立っている。天皇家内史書は一旦帝王本紀として天武10年に成立した。天皇家外資料としては日本旧記、百済系三史がある。百済系三史は国外資料である。

⑥譜第(カバネノツイデノフミ) 系統を追って書き記したもの、筋道を立てて記したもの、順序、序、帝王日嗣を継いだ第について第＝弟、帝王本紀＝譜第 帝王本紀も譜第も日本書紀には一度しか登場しない。しかし系譜のようなものというより系譜以上のものであるかもしれない。姓のこと。帝王本紀と譜第は同じようなものか。天皇家の系譜が帝王本紀か。豪族の系譜が譜第か。譜第の引用部分は「譜第に曰く市辺押磐皇子蟻臣の女蠅媛を娶す。遂に3男2女を生めり、その一を居夏姫、その二を億計王と申す、その三を弘計王と申す。その四を飯豊女王と申す。その五を橘王と申す。」(ここまでは譜第からの引用)

一本に飯豊女王を以って億計王の上に列叙たり。(この一本は譜第からの引用ではない)

第386回2026-1-12(月)15時10分から18時まで603会議室 時間注意

第387回2026-1-26(月)14時10分から17時まで602会議室

第388回目 2-9(月)14時10分から17時まで601会議室